

やりがちな NG 収納事例集

01 使いたいモノがすぐに取り出せない引き出し

Before



キッチンツール・スプーン&フォーク・お箸などごちゃ混ぜに入った引き出し。持っているもの全部を入れてしまうと、モノが重なりあって、何が入っているのかわかりにくく、使いたい時にすぐに取り出せなくなります。



After



使う頻度や種類を絞って、入れるモノを厳選しましょう。“よく使うモノだけ”を入れることで、ストレスなく使いたいモノをすぐに取り出せるようになります。使い終わった後の片付けもグンとラクになります。

02 とにかく詰め込んでいて 何が入っているか不明

Before



洗面シンク下の扉収納は、ついついモノを詰め込みガチな場所のひとつ。奥行きが深くたくさん収納できるが、奥の方は取り出しにくいのが難点。詰め込みすぎると、ストックを把握できずに、重複買いの原因にもなります。



After



シンク下用の収納ラックなどを利用して、空間を上下2段に分けて使うと便利です。バスケットを追加し、洗剤・掃除用品・歯ブラシストックなど種類別に収納すると在庫も一目瞭然。バスケットごと引き出せるので、奥のモノも出しやすい収納になります。

03 使うモノが使う場所の 近くに収納されていない

Before



モノは使う場所の近くに置く（収納する）のが鉄則。菓子が入っているこちらの引き出し、実はコンロ下の引き出し。本来入れるべきフライパン類はその下段に入っていました。一度客観的に、自宅の収納を見直すことで気づくことがあります。



After



コンロ下の引き出しにはコンロ周りで使う、鍋・フライパンを入れることですぐに出して使えるようになります。重ねすぎずワンアクションで取れると尚使いやすい収納に早変わり。普段何気なく行っている、家事動線を考えながら収納場所を決めてみてくださいね。

04 積み重ねすぎて、 雪崩が起きそうな収納

Before



タオルが詰め込まれすぎていたり、収納ケースを使っているもののケースが重なっていたり、その上にさらにマスク・薬などが乗せられていて、今にも雪崩が起きそうな状態。タオルの枚数も多く、使っていないタオルも。



After



収納ケースは、手が入るくらいの空間を空けることで中身を取り出しやすくなります。1段1ケースにして、できるだけ重ねないように。タオルは種類別に家族人数と洗濯頻度から必要な枚数を割り出し、数量を絞りましょう。また、棚板を増やして、1段にモノを重ねすぎないように工夫するのも有効です。棚板はホームセンターなどで購入可能。

05 フタ付きの収納ケースは、 重ねると下のモノが出せない

Before



一見便利そうに見えるフタ付きの収納ケース。よく使うモノやおもちゃには、実は不向き。下の方に置かれた収納ケースは開かずの収納になりがちです。特に重いものを入れると出し入れも面倒。スペースを取らないので、スッキリ見えますが、決して取り出しやすくはありません。



After



よく使うモノを入れる収納ケースにはフタは不要。おもちゃは遊びたい時にすぐに遊べ、お片付けも簡単。子供が楽しんでお片付けができるようになります。一方で長期的に保管するモノには、フタ付き収納ケースが向いています。

06 場所に合わせたサイズの 収納用品を買ってしまう

Before



収納場所のサイズにぴったり合う
収納用品を見つけても、何を入れ
るか思い浮かばない場合は購入は
ちょっと待った！収納用品を先に
買ってしまうことは、意外とやり
がちなこと。

After



自分の家の収納に合うかどうか、
空箱や紙袋などでサイズ感・出し
入れのしやすさを確かめてから。
写真は、自宅に保管していた空箱
を利用した事例（2段目）。仮置き
で十分機能する事も多いです。

07 モノを入れるルールを決めず “とりあえず”の収納

Before



何を入れるかのルールを決めず、とりあえずでモノを収納場所へ入れてしまうことありませんか？モノは使いやすく&片付けしやすい場所に居場所（モノの住所）を決めることが大事。あれどこだっけ？と探す時間は1日に5分として、1年間で30時間探し物をしている計算。ゾッとしますよね。



After



ファイルボックスや引き出しを使って、種類別に分けて、居場所（モノの住所）を明確にしてあげましょう。半透明のケースを使うことで、中身も見えて迷子になりにくい利点も。棚の位置は、入れるモノによって変更し、空間を有効活用しましょう。ラベルを貼って中身がわかる工夫も。

08 収納用品（カゴ等）の 許容量をオーバー

Before



収納用品を並べて種類別に収納したり、居場所（モノの住所）を決めたとしても、その収納用品から溢れるほどモノを入れてしまうと本末転倒。1つバスケットを取ると、雪崩が起きるのが想像できませんよね。



After



収納する場所に対して、“8割程度”の量にすることがストレスなく、出し入れしやすい収納にするコツ。高い場所には取手付きのケースにするなど収納用品も場所や入れるモノによって、使い分けてみましょう。



教えてくれたのは、、、

整理収納アドバイザー 能登屋 英里（のとや えいり）

お片付けアドバイス経験は130回以上

15年間のアパレルディスプレイの経験を生かし、見せる収納が得意。

個人宅やオフィス等のインテリアや整理収納のアドバイスを行なう傍ら、インスタグラム（@eiryyy_interior）では収納や暮らしについて発信中。